

86. <一発見！？オゾンの町一>

※PDFファイルに写真が添付されています

先日、名古屋に出張した時のこと、名古屋駅から市営地下鉄東山線に乗り、栄で名城線に乗り換えて、いくつかの駅を過ぎた後、停車した駅の名をふと見ると、英語で”Ozone”（オゾン）と書いてあるではありませんか。丁度、その頃、「オゾン処理技術の技術評価」を行っている最中だったので、これは見過ごす訳にはいかぬと、あわてて電車を降りて、携帯で写真を撮りました。添付ファイルがその写真です。写真が若干ぶれているのは、ホームで夢中で写真を撮っていると、いつのまにか電車が接近しており、警笛を鳴らされたので、あわてて下がりながらシャッターを押したためです。

ここは、名古屋市東区にある市営地下鉄の大曾根（おおぞね）という駅なのですが、ローマ字表記は、”Oozone” とか”Ohzone”ではなく、まさに、”Ozone”（オゾン）と書いてあります。単なる偶然にしても面白いと思っていたところ、後で聞いた話ですが、大曾根には近くに某電機メーカーの工場があり、そこではオゾン発生装置も製造していたということですので、やはりオゾンとは縁がある町のようなようです。

このように下水道で使う用語が、ローマ字表記とは言え地名になっているような例は、多分、ほとんど無いのですが、生ゴミ等と下水汚泥の混合消化で、最近、良くその名前を耳にする石川県の珠洲市（すずし）には、宝立（ほうりゅう）という地名があるという話は聞いたことがあります。他にも、このような地名があれば教えて下さい。

なお、「オゾン処理技術の技術評価」については、この7月に技術評価報告書を刊行しました。本報告書中には、下水道におけるオゾンの適用に関する知見を総合的にまとめてありますので、ご活用下さい。（入手方法等については、日本下水道事業団ホームページ内の「お知らせ-刊行物」をご覧ください）

<技術開発部長 村上孝雄>

※J S 技術開発情報メール No. 94 号(2009/9/7)に掲載